



各賞受賞

社団法人自動車技術会より論文賞を受賞

2008年5月に新日本石油と日産自動車が自動車技術会春季学術講演会で共同で発表した研究論文「燃料によるHCCIエンジンの運転性能改善に関する研究(論文番号20084909)」が、社団法人自動車技術会の論文賞を受賞した。同賞は過去3年間に自動車工学又は自動車技術の発展に寄与する論文を発表した個人会員及び共著者に贈られる賞である。当社と日産自動車は他社に先駆けて2002年4月よりHCCIエンジンの燃焼に燃料の組成が及ぼす影響に関して詳細な共同研究を継続しており、これまでに同研究分野において自動車技術会より2005年に「優秀講演発表賞」、2006年に「論文賞」、また2007年にはSAE(米国自動車技術会)よりその年度に最も優秀な燃料の燃焼研究1件に対して与えられる「Harry L. Horning Memorial賞」を受賞している。



左から 共同研究者の漆原氏(日産自動車)、柴田社員(燃料研究所)

2008年度「日本トライボロジー学会技術賞」を受賞

当社と日本精工株式会社の両社で共同開発した「電装補機軸受用長寿命グリース」は、社団法人日本トライボロジー学会の2008年度技術賞を受賞した。同賞は、トライボロジーの分野において、獨創性、新規性、品質、性能の優秀性が認められ、今後の社会貢献が期待できる新製品・新技術に与えられる賞であり、当社は3年連続での受賞となる。

当社は日本精工株式会社と共同で、高温高摩擦の厳しい使用環境下において問題となる電装補機軸受^{※1}の「白色はく離^{※2}」過程を解明し、グリース材料の最適化により、軸受の寿命を大幅に延長できるグリースの開発に成功した。今回開発したグリースは、電装補機の信頼性の向上に貢献している。

※1 自動車のエンジンに取付けられベルトで駆動されるオルターネータやカーエアコン用コンプレッサ等に使用される軸受の総称。

※2 金属組織が化学的变化(白色変化)を起こすことによるはく離。金属疲労によるはく離より短時間で発生する。



左から 横内氏(日本精工)、坂本社員(油滑油販売部)、磯氏(日本精工)



「パワー・カーボン・テクノロジー本社工場」建設着工

5月19日、当社がGSカルテックス社と合併で設立したパワー・カーボン・テクノロジー社（以下「PTC社」）は、大韓民国慶尚北道亀尾（グミ）市にて、キャパシタ電極用炭素材を生産する本社工場の起工式を実施し、建設に着手した。

キャパシタは、瞬間的に多くのエネルギーを必要とする建設機械や鉄道などにおいて、従来、使用されていなかった減速時に発生するエネルギーを電力として蓄えることで、エネルギーを有効利用できる蓄電装置である。今後は、太陽光発電や風力発電の蓄電池への用途も期待されている。

PCT社では、本年12月に工場の建設を完了し、2010年1月より試運転を、4月には商業生産を開始する予定。
（エネルギーシステム開発部 蓄電開発グループ 佐野川豊）



あいさつする渡会長



渡会長（左から4番目）、GSカルテックス社・許会長（左から5番目）はじめ起工式に列席された皆さん

起工式概要

場 所：大韓民国 慶尚北道 亀尾（グミ）市
国家産業第四団地

主な出席者：慶尚北道知事 金 寛容（キム・クァニョン）
亀尾市長 南 ユ鎮（ナム・ユジン）
GSカルテックス代表取締役会長 許東秀（ホ・ドンソ）
新日本石油代表取締役会長 渡文明
PCT代表取締役社長 徐元培（ソ・ウォンベ）



完成イメージ

パワー・カーボン・テクノロジー社概要

所在地：大韓民国 慶尚北道 亀尾（グミ）市
国家産業第四団地

事業概要：キャパシタ電極用炭素材の生産、販売、研究開発

出資比率：当社50%、GSカルテックス社50%

生産規模：年産300トン

